

気仙沼への

創刊号
2008.12



発行：地域活性化研究会 気仙沼ビューロー
東京都台東区東上野6-1-1
(社) 漁業信用基金中央会内 地域活性化研究会
TEL: 03-3841-4035
メールアドレス
kesenumabureau@yahoo.co.jp

「気仙沼への風」を発刊いたします

気仙沼に風を送ります

日出 英輔

次回からは気仙沼活性化のための具体的な提言をしますが、今回は創刊号、ふるさと気仙沼への思いを書いてみましょう。

この一年、燃油高騰、金融危機、景気後退等々、変な突風が次々と吹き荒れています。でも、この突風、吹き荒れていてもこれに負けずに自分の城を守っている人達の実に多いこと。

日本は世界に冠たる長寿企業の多い国。創業100年以上企業は約5万、200年以上企業は約3,000。不況時でも3割は成長、5割横ばいとか。

長寿の秘密は「本業を大切に。しかし本業の強みを活用し絶えず改良すること」。つまりは必要な情報を常にしっかりと握っていることですね。

ところで今は情報氾濫時代。しかも都市部からの情報発信は凄まじいの、地方部は全くの受け身。地方の企業はすでに情報戦争で負けつつあります。

しかも、都会では既に体験・遭遇できないが、地方では出来る素晴らしい資源が多いのに気がつかないところも結構多いですね。ああ、もったいない。

だから、地方に住み、活動している人達に情報面から少しでも元気を与えることが出来たらと思ってこれまで活動してきました。

全国を歩いていても、「気仙沼は面白いところだなあ」と思い続けています。でも決定的に足りないのは情報の受信・発信力で、情報無縁を決め込んだりしている人達が多いのは、惜しい、本当に惜しい。(これは私だけでなく、若い世代の人達が言っているのですから、驚きです。)

ふるさとを離れて活動している「気仙沼ビューロー」のメンバーは、みなぎる力を気仙沼の活性化に結集しようとしています。ご期待を！

(ひので・えいすけ) 昭和16(1941)年生まれ。前参議院議員。平成17年、地域活性化研究会を立ち上げ、全国の農林水産業・食品産業を中心とした地域おこしの支援をおこなっている。

気仙沼ビューロー立ち上げに寄せて

畠山 朔男

始めまして、畠山朔男と申します。(1940年生まれ)

この度の“気仙沼ビューロー”立ち上げに対しましてまず以って敬意を表したいと思えます。日出英輔氏の強いリーダーシップと皆さん方の郷里・気仙沼に対する熱い想いが後ろ盾となって速やかなる団結を見たものと思えます。

日出さんから本会の趣旨について説明を受けたのは10月も末に近い“どんぐり会”懇親ゴルフ会の帰路のバスの中でありました。私は即答で賛意を示したものの、詳しい内容については知りませんでした。後日、日出さんから“地域活性化研究会気仙沼ビューロー規約(案)”なるものが送られてきて分かったのですが、そこには私が頭で描いていた趣旨よりも遥かに高邁な精神が謳われており、改めて本会を企画立案された皆さん方の郷里・気仙沼に対して“なんとかせにゃー”の思いが強く感じられた次第です。

私は気仙沼高校の2学期で気仙沼を離れましたが心優しい友人達が11回生卒扱いにして頂いており今でも同窓会には毎年参加致しております。

17歳で郷里を離れて以来、東京3年・京都4年・大阪11年・再度戻って東京33年の在住と51年の歳月が流れましたが未だに時々見る夢は戦後の貧しい中にも活気が溢れていた旧魚市場の光景や、鼻を垂らしながら寒空の下でチャンバラごっこをしながらお墓山を走り回っていた頃の光景である。

小学校も子供達で溢れ、毎週月曜日の朝、校庭で聞く尾形校長先生のあの“がつようびの

朝は…”で始まる朝礼も今では懐かしく思い出される光景のひとつである。

気仙沼駅から続く古町・新町・八日町・南町・魚町の大通りは夜になっても人通りが絶えず賑やかだった光景も“思い出は美化され勝ち”という事を差し引いたとしても現状は当時の面影が全く見当たらない位に寂しくなっていました。

時々同郷の友人達と一杯飲む機会がありますが、決まって出る話題が“元気の無くなった気仙沼の話”である。私を含め皆さんは現状を嘆いて同情はする、また行政の悪さを批判はする、しかしいつもそこで話は終わってしまうのが実情である。

大半の方は気仙沼の為に何かしてあげたいと思っても一人では全く無力である事を思い知らされるのが関の山である。せめて気仙沼と名称がつく会には出来るだけ参加してその想いの一部でもと勝手に思い忸怩たる思いをしていた矢先に日出さんより本会のお話があり、気仙沼の活性化のお役に立てるなら微力ながら協力したいと思った次第です。

日出さんは参議院議員の時は全国区での活動を中心にされていて、なかなか郷里気仙沼に的を絞った形の活動は出来なかったと思いますが今回、本会の代表を引き受けられたことは本会の発展にとり大きな力になるものと確信いたして居ります。

本会は“肩肘張らず、小さな力の結集”を合言葉に有意義な会に発展し郷里気仙沼の活性化に役立つ事を願って居ります。

(はたけやま・さくお) 昭和15(1940)年生まれ。丸紅メタル(株)非常勤顧問。

ふるさと「気仙沼」の発展を思う

大森 郁夫

中学まで気仙沼で暮らし「ふるさと」を離れて50年以上も経ちますが、安波山や気仙沼中学の教室の窓から見ていた穏やかで風光明媚な鼎が浦の景色と人々との交わりは、心のよりどころでありそして誇りでもあり発展を望んでやまない1人です。

久しぶり気仙沼の仲間が集まり、気仙沼の現況を話しあう機会ができ、ふるさと言葉で楽しい会話が飛び交いました。

日頃、日本全体の水産業の衰退など気仙沼を取り巻く環境の「弱み」ばかりが気になっていましたが、新しい情報に接することができ、私の見方も修正でき、ふるさと気仙沼には「強み」が沢山あることが認識できました。気仙沼の「特長」や「強み」を発揮し物心両面での「豊かなふるさと」の構築ができそうだと思いなおしたところでした。

気仙沼の現況を知るべくインターネットで検索しますと、230ページにおよぶ『第一次気仙沼市総合計画』（人と自然が輝く、食菜豊かなまち）が策定されており、期待を持って一覧してみました。しかし、ビジョンやキャッチフレーズは良いのですが行政に関する全て事項を取り上げ、総花的に①現況、②課題、③計画が述べられていますが、「達成目標」は一切記載

がなく「ローリングしていく」との言葉で終わっているのには残念に思いました。ビジョン達成のための道程となる「達成目標」がない計画はローリングできないのはご承知のとおりです。ここまで「総合計画」ができたならば具体的な「達成目標」、「達成水準」もつくり全市民の共通目標として掲げ、よきコミュニケーションをはかり、関係者の協働意欲を引き出して活動を進めローリングしていくべきと思います。例えば、『第一次気仙沼市総合計画』P 225から「地域資源を活用した活力ある産業のまちについて」の問題点も見出せます。これらのことを解決するために気仙沼トータルの所得総額（GNP的な）や人口増加目標など主要指標を具体的に定め、気仙沼の「強みのある経営資源」を有効活用して全市あげての活動を進め、ビジョン達成のための「ステップ目標」として「行政政策」や「民間の活動」に反映していくことが発展の鍵ではないかと感じています。今回は創刊号でもあり多くは述べませんが、郷土の皆さんとの会話を繰返す中で活動のあるべき姿を模索したいものです。皆さんからの意見を頂戴し自分達を育ててくれた気仙沼を考える時間をもっと多く持ちたいと思っています。まず情報や意見交換を始めましょう。

安全・安心の食は気仙沼にあり

坂井 素美

先日、主人が東北から戻った友達に呼ばれ、「お土産の牡蠣とフカヒレをごちそうになった」と言って帰宅した。産地の気仙沼でもフカヒレが高価だったという話はさておき、食べ物（初めての焼きカゼも）が美味しかったの連発だったとのこと。

出発前に、気仙沼に行ったら必ず行くように伝えておいたお勧めのお店が、あいにくあいていなかったということで、主人もがっかりの様子。数ヶ月前の「トランヴェール（東北新幹線においてある月刊誌）」にも掲載されたお店で、目に留まった瞬間、なんとなく嬉しくなって持ち帰った。

その一週間後、息子が東京に戻った際、「載ってたね！」と一言。その日の夕食は、何が美味しい？次に行ったら何を食べよう？果ては気仙沼の美味しいもの（いただきものも含めて）で話が盛り上がった。

そのお店はたまたま主人が行った際、女房が気仙沼出身という話を持ち出したことで、お店の方が私の同級生とわかり、その場から東京にいる私の携帯に連絡があり、数十年ぶりに話をしたのがきっかけで、気仙沼に戻った時にちょくちょく行くようになった。それからというも

の、東北方面に旅行を考えている方や美味しいものを食べたいという方にお勧めしている。

気仙沼に残られたり戻られたりされた方々が頑張っておられる様子に接することが、私の励みのひとつにもなっているため、この先も機会あるごとに気仙沼をいろいろな方面から積極的にアピールしていきたいと思っている。

毎朝インターネットで三陸新報さんの記事を見させていただいて、最近はいろいろな特産品での町おこしが盛んに行われているんだなと感心させられる。今やアメリカ主導の大量消費は終焉をむかえ、食の安全が社会問題となり、併せて4月から厚生労働省より打ち出されたメタボ（特定）検診の義務化を考えると、少々割高になったとしても、安心と安全性の担保された適量（カロリー）の食事を求める消費者が増えてくること確実。美味しく安全という点で、気仙沼独自の特産品をアピールしていくのもひとつの方法では？

ちなみに私はこのところ、今までの資本主義経済に疑問が生じ、各地の知り合いと、気仙沼産の食べ物も含めて物々交換を始めている。リピートに心が躍り、次は何を送って「美味しい！」の連絡をもらおうかと考えている。

拝啓 気仙沼さま

菅原 洋道

拝啓 気仙沼さま

季節も冬となりいかがお過ごしでしょうか。小生高等学校を卒業して以来早30年が経ってしまいました。実家もすでにそちらには無く、気仙沼は一観光客として訪れるところとなりました。

さて、このたびあなたのために、すでに気仙沼には生活の場を持っていない仲間、あなたのことを相談する会が立ち上がりました。勿論、あなたのために思っていること。わたくしめも、その会へ参加いたし愛するあなたのために「なんたりかんだり」、会発行のメールマガジンに投稿させていただきます。お気に召さなかったらごめんなさいませぬ。

さて、さて、今回第一回目のメルマガが発行されるにあたり、ご挨拶かたがた、この一回目のお手紙を書くことにしました。

なにかから書いたら良いのか、ちょっと悩んでみたりしたのですが、あなたのところへこっそり出かけるたびに、パチパチと写真を撮っていることお知らせするのが一番よいのではないかと、そのことから書き始めてみます。

つい先日、気仙沼駅を始まりに、古町、新町と撮り歩いてきました。36枚撮りフィルムでちょうど2本分。わたしが開いているHPに掲載しておきますのでよろしければ御覧くださいね。

(<http://www.furusatotv.jp/>)

まずは、駅。黄緑色の板張り?の駅舎!なんとも独特の風情があります。カラー写真向きではありませんが、白黒で撮るとこれがなんともよいのです。駅を出て左へ曲がり、少しすすむとすでに使って居なさそうな旅館。木造の立派な

様子は道路の反対側からの眺めが最高にレトロですね。

さらに、近くにある八百屋さん。お母さんがひとりで店番をなさっていた。裸電球に昼間なのに薄暗い店内は、それこそ昭和の香りぷんぷんです。ぼくは度胸が無いのでお声をかけて撮らせていただくのが苦手です。できれば一枚お母さんごと店内を撮りたいものだなあと思っています。今度ですかねえ。

お次は北野神社さん。階段を登って出会う風景は冬日にとってもマッチしていました。紅葉もしっかり見物できました。で、路地へ足を入れると、さいたまアパートさん。おお、っていう感じでした。もちろん一枚撮らせていただきました。と、今回はここまで書いておきます。残りは次回で・・・

こうして、改めてあなたのことを土地勘はあるものの一観光客として眺めてみるにつけ、シットリと落ち着いた街の雰囲気はとても魅力的です。個人的には気仙沼駅周辺のちょっと逆光気味の光がとても似合う風景が一番のお気に入りです。

それと、食べ物。やっぱりおすしが良いですね。歩いているとあちらこちらにおいしそうなおすし屋さんの暖簾がならんでいます。そのうち、暖簾の写真を撮り貯めて一同に展示なんていうのも考えてしまいます。

気仙沼さま、青い海と山と綺麗な光のあるあなたさまは、とてもとてもすばらしいところです。

あなたの育まれたやさしい街の人々とともに、あのホッとする雰囲気が永く続いていきますようにお祈りいたしております。

敬具

(すがわら・ひろみち) 昭和35(1961)年生まれ。仙台市在住。スガワラ保険サービス代表、NPOふるさとテレビ仙台支局長。

気仙沼ブランドを世界へ発信

小山 利英子

小山と申します。

私は地元の高校を卒業した後、東京に出て30年近くになります。

地元に住いた時には見えなかったことを、東京という地で感じる事がありますので、それを述べてみたいと存じます。

気仙沼市の人口は、2008年11月末現在64,812人。

Wikipediaで「日本の市の人口順位」を調べ、気仙沼を基軸に前後5つを列挙します。

■気仙沼より人口が若干多い市

福井県 鯖江市
岐阜県 羽島市
岡山県 総社市
東京都 武蔵村山市
茨城県 常総市

■気仙沼より人口が若干少ない市

愛知県 田原市
栃木県 真岡市
山口県 山陽小野田市
愛知県 知立市
大阪府 藤井寺市

これらは（人口数という少々強引な切り口では）気仙沼と同程度の規模です。

それらの名前を聞いて、想像出来るものがありますか？

私はせいぜい、いくつかの名前を知るだけです。

それに引き換え、「気仙沼の知名度はかなり高い」ことを東京にいて感じます。

多くの方が「ふかひれ」「さんま」「魚が旨い」「漁港」「リアス式海岸」といくつも連想してくれますし、「行ってみたい」という声を多く聞きます。

ところが、私もそうですが、気仙沼の人は「ダメだー」と嘆きます。

何かと比較して、「はっばわがんね」と言います。

いったい何と比較しているのでしょうか？

「東京？」「仙台？」「景気が良かった昭和の時代？」そういう事と比較していませんか？

気仙沼のブランド力は圧倒的に高いことを誇りに思い、そして後世にきちんと引き継ぐべきだと考え始めました。

気仙沼人が大事に作り上げてくださった「気仙沼ブランド」を、様々な形で世界に向けて発信出来たらと存じます。微力ながら私もその一翼を担えれば幸いです。

「いいまち」と伝え続けたい

武山 健自

以前「バファリンの半分は愛でできている」というCMコピーがあったが、僭越ながら「僕の半分は気仙沼でできている」と勝手に思っている。いや、そう思われたい。上京して18年、出身は気仙沼と答えるだけで朴訥な人のイメージを与えるから、少なくとも悪党には思われたい。それにどんなに助けられたことか。「港町ですね」「地図がギザギザのところ」「魚がおいしい」、社交辞令だと割り引いても、相手が即答できるイメージを持っていることに嬉しくなる。それもこれも先人たちが築いてきたまちづくりである。いま思えば気仙沼で生まれ育ったことがありがたく、そう確信するまで30年かかった。もっと早く気づけばよかったと後悔している。

前職では年間130箇所の地方出張があり、4年で500箇所、まさに稚内から石垣島まで津々浦々を歩いた。そこで見聞きしたのは、どの地方もよその芝生をうらやましがる。東京や大阪と比べてインフラがどうだの、遊び場が少ないだの、みな中央を向いて話す。その一方でわがまちが一番だと心の中で思っている。この矛盾はどこからくるか。まちの良し悪しは相対的なものであり、どこが一番だなんて本当のと

ころ分らない。「住めば都」とはよく言ったものだ。要するに、何気なく着た服をほめられてその価値に気づくのと同じで、住み続けると気づかぬものでも、外部からみるとうらやましく思うものがある。いいまちだと思うなら臆面なく発信し続けること、そして「いいまち」と他人に言われることで自信を深め、正の連環が生まれるのだと思う。

たしかに人口が減っただの、どこそこが潰れただの、いい話を聞かない。水産業が主要産業の気仙沼で200海里規制前と比べたらそりゃ活況は落ちたであろう。でも僕は200海里規制後に生まれ育った。だから景気のよい気仙沼は知らない。全国を歩いてみて、気仙沼はまだまだ捨てたものじゃないと思う。カツオ漁以来400年築いた漁撈技術、造船技術、加工技術、それに豊富な水産資源に観光資源だってある。何よりも人的資源が豊富である。

もちろんやみくもに褒めそやかすのではなく、心から楽しいものを伝え続けることで正の連環を生み出していきたいと思う。

この地域活性化研究会気仙沼ビューローがその装置として機能し、僕はその応援団になればと思っている。

地域活性化研究会 気仙沼ビューローについて

当団体は気仙沼地方と縁を持つ者たちが、それぞれが得意とする分野からの提言や活動を行い、気仙沼地方の発展に寄与できることを目指し、平成20年11月に設立されました。今後、テーマを絞った提案や勉強会を行う予定ですが、まだ設立されたばかりで夢は膨らむばかりです。気仙沼地方が末永く発展できるよう、外部からサポートできる最大限の事業をすすめていきたい、そんな風に考えております。

なお、参加資格はありません。気仙沼へ思い入れを持つ方であればどなたでも参加になりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【参加メンバー】(2008年12月28日現在)

日出 英輔	地域活性化研究会会長・前参議院議員
畠山 朔男	丸紅メタル(株) 非常勤顧問
佐藤 則好	大一建設(株) 代表取締役
近藤 章	(株) ISI パートナース 事業開発部長
大森 郁夫	中小企業診断士
村上 洽視	(財) 漁場油濁被害救済基金
坂井 素美	(有) アドニス 専務取締役
菅原 洋道	NPO ふるさとテレビ 仙台支局長
高濱 悟	(株) ジェクト 代表取締役社長
小山利英子	(株) テレパス 代表取締役
川村 浩	水産庁漁政部
畠山 明	(株) セレクティ 代表取締役
岩手裕美子	ジュピターショッピングチャンネル(株)
佐藤 恭子	(株) デルコンピュータ
武山 健自	(株) イーシンコミュニケーションズ 代表取締役

なお、役員は次の通りです。

代 表	日出 英輔
副 代 表	小山利英子・高濱 悟
会計責任者	大森 郁夫
事務局 長	武山 健自

皆様のご意見・ご感想をお待ち申し上げます

ご意見・ご感想、素朴な疑問から願いまで、皆様のお声をお待ち申し上げます。気仙沼地方の課題について、微力ですが一緒になって解決できれば幸いです。メールにて承ります。

メールアドレス kesennumabureau@yahoo.co.jp

※プリントアウトしてご活用ください。